

第10回町田市長期計画審議会議事概要

1 **開催日時** 令和3年4月13日（火） 午後1時00分～午後2時15分

2 **開催場所** オンライン会議

3 **出席者**

<委員>

（学識）大久保英敏会長、三輪律江職務代理、芳賀博委員、小林保子委員

（市民団体）深澤勝委員、安達廣美委員、小野敏明委員、大野太郎委員、清原理委員、
野澤哲也委員、櫻本千恵子委員、上坂孝博委員

<事務局>

小池政策経営部長、黒田経営改革室長、唐澤企画政策課長兼未来づくり担当課長、菊地
経営改革室課長、山田企画政策課担当課長、

（企画政策課）山岸、新井、中村（経営改革室）太田、堀、永井、猪熊

4 **傍聴者**

0名

5 **次第**

1 開会

2 報告事項

（1）第9回審議会の振り返り

3 議事

（1）まちだ未来づくりビジョン2040答申案について

（2）答申書の留意事項について

4 その他

（1）ビジョン冊子デザインについて

2 報告事項

(1) 第9回審議会の振り返り

- 議事録を踏まえ、前回審議会の振り返りを行った。

3 議事

(1) まちだ未来づくりビジョン2040答申案について

- 三輪委員
 - ・答申案P53の指標の修正について、承知した。
 - ・市民意識調査を今後実施する理解で良いか。
- 事務局
 - ・この指標で質問項目を作成し、市民意識調査を実施する。
- 三輪委員
 - ・承知した。

(2) 答申書の留意事項について

- 大久保会長
 - ・答申書の作成においては、留意事項がないこともあるのか。
- 事務局
 - ・他の自治体ではない場合もある。
- 大久保会長
 - ・委員からは特に意見がない。承認いただいたと理解した。
- 事務局
 - ・この内容で答申書を提出する。

4 その他

(1) ビジョン冊子デザインについて

- 芳賀委員
 - ・P10「なりたい未来の構成」について、冊子版では「なんだかんだまちだ」に向けて項目が左から右に流れている。答申では下から上に流れている。この違いに何か意味があるのか。
- 事務局
 - ・デザイン上の都合であり、特に意味はない。
- 芳賀委員
 - ・下から上に流れる方が、ビジョンに向かって登っていくイメージがあってよい。
- 大久保会長

- ・P11「策定スケジュール」も同様に、もともとの答申の図の方が見やすいのではない
か。デザイナーの人に伝えてほしい。

○事務局

- ・変更できないか検討する。

○大野委員

- ・冊子の表紙のタイトルに関して、「まちだ未来づくりビジョン2040」のタイトルと
イメージ図が入っている。内容をより強く周知するために、キャッチコピーやロゴを表
紙に掲載してもよいのではないか。そのような議論はあったのか。

○事務局

- ・以前同様のご指摘をいただいたため、裏表紙に入れられないかを検討している。

○大野委員

- ・周知を図ることも合わせて考えると表紙にもう少しインパクトがあるとよい。
- ・冊子の大きさはどのようになるか。

○事務局

- ・A4サイズとなる。

○大野委員

- ・見やすく良いと思う。

○大久保会長

- ・キャッチコピー等を裏表紙に反映できるように検討してほしい。

○三輪委員

- ・表紙イラストについて、政策のイラストを組み合わせるのではなく町全体として表せない
か。政策ごとの4つの島が分かれて記載されていると政策が分断されている印象を受
ける。政策としては分かれているが、全体としてつながっていること表した方がよい。
- ・施策5のイラストに、高齢者しか載っていない点が気になった。高齢者支援においても、
子育て世代を支援している高齢者の方などもいるはずなので、もっと多世代の人のイ
ラストを入れられないか。

○事務局

- ・島を1つに統合することは難しいが、島と島の間場所に車やドローンの絵を入れるな
ど、全体として1つの町に見えるように工夫して見せていきたい。
- ・施策5のイラストについても検討していく。

○大久保会長

- ・表紙の絵は政策の島でよいのか。むしろ、表紙を開いた次の見開きに島があった方がよ
いのではないか。逆に表紙にはこのようなパラパラ漫画のイラストがあっているのだ
はないか。

○事務局

- ・この段階で表紙をどこまで変えられるかわからないが、検討する。

○三輪委員

- ・表紙では政策が分断しているのが残念であるため、そこは改善してほしい。

○事務局

- ・あまり分断している印象とならないように検討する。

○大野委員

- ・配布の際に町田市としてどのようなキャンペーンを実施していくのか。HPやその他のメディアをどのように活用して、市民に手に取ってもらえるのかを検討するとよい。
- ・周知は来年4月から開始するのか。

○事務局

- ・周知は今年度から実施する。6月議会で本計画が議決された後に順次実施する予定である。

○大野委員

- ・周知はスタートダッシュが重要である。タイミングごとにどのようなキャンペーンを実施すべきかをよく検討してほしい。

○事務局

- ・承知した。周知には力を入れていきたい。

●安達委員

- ・全体的なカラーがパステルカラーで統一されており、やわらかい印象を受ける。よい印象を持った。
- ・調整ができるのであれば、配列等の調整をしていただき、現在の冊子デザインをよりよく仕上げてもらえるとよい
- ・答申案は白黒で字が小さく読みにくい、冊子版になれば改善されると思っている。

○事務局

- ・概要版ではより読みやすく、とっつきやすいものを作成する予定である。

○小林委員

- ・文字の校正は今後実施するのか。

○事務局

- ・今後校正も実施する。議決されてしまった部分は変えられないが、微修正等は可能である。

○小林委員

- ・P107にて、前のページからの文字が残っている個所がある。他の個所にも見受けられたため調整したほうがよい。
- ・表紙の「Master Plan of Machida City.」のピリオドはいらないのではないかと。
- ・政策の扉ページ等に関して、パステルカラーの背景の上に白抜き文字があると、見やすさと見にくさがある。印刷するとパステルカラーがかなり淡いため、文字が見えにくい。色の上に文字が乗っている部分が多いので細かく調整してほしい。

○事務局

- ・確認する。

○櫻本委員

- ・答申のP56について、「5, 6年生の外国語が導入され」は文字が間違っている可能性がある。
- ・P136の「職員意識の向上」「組織風土の醸成」「人事制度の活用」とあるが、「人事評価制度の活用」ではないのか。

○事務局

- ・確認して修正する。細部の校正は事務局で責任を持って実施する。

○大久保会長

- ・校正の第3稿程度の段階で、審議会委員の皆様には校正作業をお願いしてもよいのではないか。

○事務局

- ・時期的にいつになるのかわからないが、文言が固まってきた段階で委員の皆様にお渡しする。

○野澤委員

- ・広報が重要である。100ページにもなる冊子を手にとってもらうのは難しい。概要版の広報に注力すべき。
- ・地域団体は本編を見るべきだが、資料のメッセージがわからないと手に取りにくい。誰にどうして見てほしいのか、どのように活用してほしいのか等を明確化して、広報活動に力を入れてほしい。
- ・地域と行政が一丸となってまちを良くしていきたい、というメッセージを伝えてほしい。

○事務局

- ・見てほしい個所やメッセージについても工夫して広報活動を実施していきたい。

○経営改革室

- ・ご指摘いただいた答申のP136の人事制度について、町田市では人事評価等の評価の仕組みに加えて、研修等の別の体系がある。それを総合して人事制度として記載している。

○大久保会長

- ・PR活動に予算はついているのか。スポンサーなどについてもらえないか。

○事務局

- ・予算はついている。皆様にご協力いただきたい。

○三輪委員

- ・計画作成段階において、ヒアリング等に協力してくれた中高校生などにはフィードバックを実施する予定なのか。

○事務局

- ・その予定である。

○三輪委員

- ・その場合、高校生からは冊子に対して「わかりにくい」「長い」などのコメントがあった。事務局で中高生などの子どもへ向けた冊子を作成するプロジェクトも運営してはどうか。
- ・冊子作成に関わったステークホルダーにも伝える工夫をしてほしい。

○事務局

- ・工夫して伝えていく。

(2) 全体的な感想

- ・とくになし

(3) 事務連絡

○事務局

- ・答申は4月21日を予定している。三輪委員に職務代理として参加していただき、町田市に対して答申をいただく。答申を持って審議会を閉会する。

(4) 感想

○清原委員

- ・2040年にむけて長期的な町田市の政策ができあがるとよい。

○三輪委員

- ・数値目標を達成することが目標ではない。継続的に改善する必要がある。答申後の進め方について、庁内各署と連携していくことが町田の強みになっていく。

○芳賀委員

- ・見やすい冊子に仕上がりそうでよい。2040に向かって町田市が向かっていくような計画ができたと思う。事務局に感謝したい。
- ・これからが事務局の腕の見せ所だと思う。計画が絵にかいた餅にならないよう、広報すること、冊子に関する議論の場を設けていくことなどを実施してほしい。

○小林委員

- ・会議の中での意見を形にしてもらえて感謝している。
- ・子どもたちが豊かに生まれ育つ町田をどのように実現していくか。まずは計画を知ってもらい、参画してもらうことが重要である。
- ・これをどう子どもに実践してもらうのかについて、例えば、小中高の学校で教科書のよりに冊子を使っていけると良いのではないかと。

○安達委員

- ・5カ年計画でさらに具体的な計画が作成されると思っている。

- ・一般の人は冊子を全部読むのは難しい。町内会・自治会も力になって末端まで冊子を読んでもらえるように協力したい。

○小野委員

- ・自分の団体の「誰もが幸せに暮らせるまちづくり」を実現にするにあたり、審議会への参加は勉強になった。
- ・広報宣伝をどう実施していくかについて、冊子の見どころを事務局がしっかり提示し、それで読んでもらえるようになるとよい。町田をよりよくしていく気運が盛り上がってほしい。

○深澤委員

- ・唯一の経済団体として意見を申し上げて、答申に反映されて感謝している。
- ・計画は行政内外にも共有して議論のきっかけにってもらえるとよい。
- ・20年先の世の中の変化は予測しにくい、計画を定期的に振り返り・検証を実施してほしい。答申が有意義に利用されるように願っている。

○野澤委員

- ・勉強になった。青年会議所を代表しているが、今後この計画を活動のよりどころとして利用したい。
- ・青年会議所はアイデアとアクションを実施していく団体である。計画はアイデアで、策定後はアクションのフェーズになる。次の20年のアクションが重要になる。青年会議所では前例がないことをチャレンジすることができる。自治体と協力して活動を進めていきたい。

○桜本委員

- ・まちだ市民病院のイラストが入っていてうれしい。引き続き病院経営を頑張っていく。
- ・2040年はすぐに到来する。高齢者に優しい町田市になってほしい。
- ・コロナの予防接種は順調に進んでいる。今後も頑張りたい。

○大野委員

- ・町田市の示すビジョンや計画は、主権者教育などの面から学生の良い教材になる。本学の生徒にも計画を紹介して、学びに活用したい。

○上坂委員

- ・地元の学校法人として、今後は広報を含めて協力したい。
- ・娘が町田市に引っ越してきて、今度は孫が生まれる。20年後には孫世代にとっても住みやすい町田市になることを願う。

○大久保会長

- ・議論が活発な良いメンバーだった。
- ・コロナの前から計画を検討してきたが、議論の方向性が的確だった。審議会で検討した将来構想の方向性はコロナ渦にも対応できるものであった。委員の皆様の活発な議論と事務局の努力の賜物である。

○小池部長

- ・昨年8月から10回にもわたる審議会を実施し、ご意見をいただき感謝申し上げます。
- ・コロナ渦においても書面会議やリモート会議への変更にご対応いただけた。皆様のご協力によって、予定どおり計画策定を進めることができた。
- ・「なんだかんだまちだ」を合言葉に「みんなでなりたい未来を作っていく」というビジョンを定められたことを嬉しく思う。
- ・6月の第2回定例審議会では基本構想案を上程する。
- ・作業はまだ続く。今年度は実行計画のとりまとめになる。今後ともご指導いただきたい。
- ・PRにもご協力いただきたい。

以上